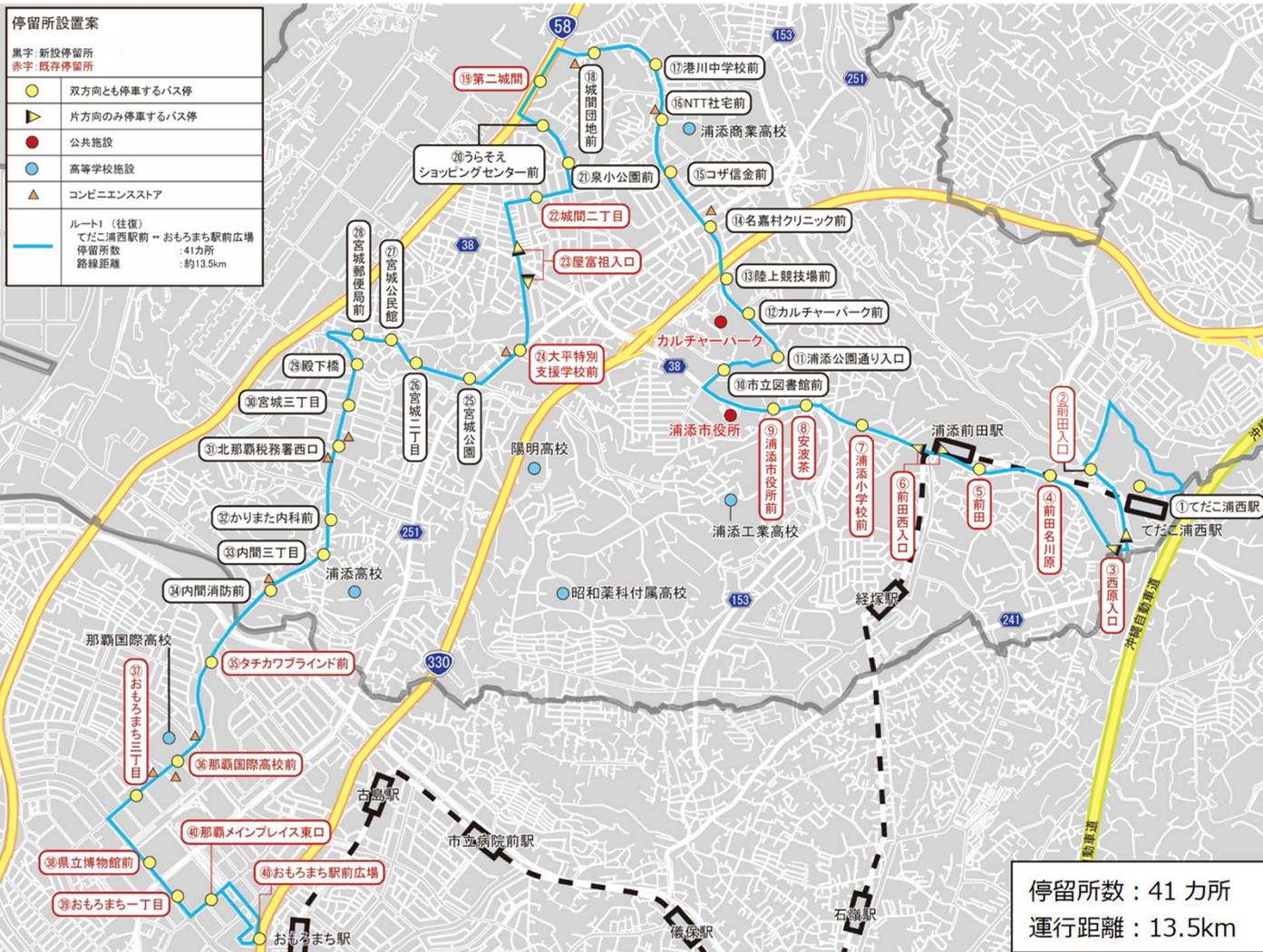




【ルート1】



- (1) 運行時期

平成 31 年の夏頃から 1 年間の予定。
- (2) 運行ルート

てだこ浦西駅より浦添市役所～伊組・港川・城間・屋富祖・宮城・内間地区を経ておもろまち駅へ至るルート。
- (3) バス停数・設置間隔

バス停数は全 41 ヶ所で設置間隔は平均 338m で設定。
- (4) 運賃設定

運賃設定は一般 200 円、小児 100 円とし、割引は一般路線バスと同等の内容で設定。
- (5) 運行ダイヤ

運行時間帯は午前 6 時～午後 22 時台とし、1 時間当たりの運行本数は 1～2 便を基本に設定。
- (6) 使用車両

車両は中型バスを使用。

【運賃設定】

対象	料金	備考
一般	200円	中学生以上
小児	100円	小学生
障がい者	100円	
免許返納者	100円	
幼児	100円	幼児単独乗車時
(1歳以上5歳以下)	無料	同伴者(大人・小児)1人につき幼児1人まで無料、2人目からは小児運賃

【時刻表】

てだこ浦西駅発の時刻表

時間	平日	土曜・日曜・祝祭日
	22便/日	21便/日
6	10 40	30
7	10 45	10 40
8	40	15 45
9	20 55	35
10	30	05 50
11	25	35
12	05 45	25 55
13	20	40
14	35	55
15	15 55	45
16	30	15
17	30	00 50
18	10	40
19	00 45	10
20	40	10 50
21	10	
22		

おもろまち駅前広場発の時刻表

時間	平日	土曜・日曜・祝祭日
	22便/日	21便/日
6		
7	15 55	30
8	35	15 45
9	10 55	30
10	35	00 50
11	10 45	20
12	40	05 55
13	20	45
14	00 35	15
15	55	00
16	35	15
17	15	05 35
18	00	25
19	00 40	15
20	15	00 30
21	00 45	20
22	15	00

【使用車両（中型バス）】

車両4台（別途予備車1台）





令和元年度スケジュール及び現状

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～
内容	委託業務見積徴収	コミュニティバス実証実験業務発注	入札執行 ↓ 入札不調	バス事業者へのヒアリング	他バス事業者との調整	第一回地域公共交通会議	<u>今後のスケジュール</u> ① バス乗務員等の課題の動向を見ながら実施へ向け調整を進める ② デマンド等の新たな交通手段についても検討を行う
備考		バス乗務員不足、車両確保等の課題があり受託不可					

浦添市 公共交通バス「運転手」募集取組

※内容変更しながら 運転手確保まで毎月折込 予定

7月広報折込(表)4万7千世帯

7月広報折込(裏)4万7千世帯

支えてもらえませんか?
浦添市内の公共交通を

乗務員不足が公共交通の大きな課題となっております。

コミュニティバス
乗務員募集中

お電話下さい
活動中心

お問い合わせ先
都市計画課
都市交通企画係
098-876-1234
(内線 4013・4014)

浦添市では (地域で支え、地域で育てる) を検討中です
子コミュニティバス

支えるって何?

- たとえば、子コミュニティバスを
- ・地域の運転手経験者が支える
 - ・通勤利用し支える
 - ・生活の足として支える
 - ・一度は試乗体験し支える

育てるって何?

- たとえば、子コミュニティバスを
- ・地域の行事やイベントで活用
 - ・新たな行事考案で活用
 - ・乗ってみてイイネを発見し広める
 - ・観光連携事業で活用
 - ・産業連携事業で活用

コミュニティバス実証実験予定ルート

コミュニティバス
コンセプト

① 「働き世代」のひと乗りが
「学生・高齢者等」の移動手段確保に貢献

② 「学生」のひと乗りが
「オジー・オバー」の元気づくりに貢献

③ 「高齢者」のひと乗りが
「子や孫」の学業支援に貢献

↓

あなたのひと乗りが
皆の支えになります。

↑

それを支えるのは
運転手の皆さんです。

あなたのひと乗りが社会貢献

庁舎1Fロビー(募集登・公共交通CM)



■(募集)
コミュニティバス乗務員募集

問合わせ 都市計画課
内線 4014・4013

内容 浦添市で検討中のコミュニティバス導入実証実験に必要な乗務員を募集しています。市民の足となり地域の公共交通を支えて下さる人のご応募をお待ちしております。まずは気軽に担当課まで問い合わせ下さい。

対象 満年齢65歳以下
募集(期間) 令和元年8月31日まで
申込方法 都市計画課まで

広報うらそえ8月号掲載予定

沖縄でも運転免許の自主返納が増加 池袋事故以前の5倍に

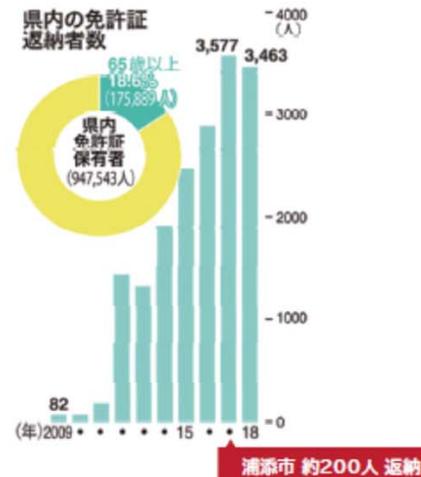
2019年5月19日 10:05

4月19日、東京・池袋で87歳の男性が運転する乗用車が暴走し県出身の女性と娘が巻き込まれ死亡した事故以降、県内で運転免許の自主返納が増加傾向にあることが18日までに県警への取材で分かった。返納者の多くは65歳以上の高齢者だ。県警によると、事故以前の返納者は1日6人程度だったが、事故の翌週は多い日で事故以前の5倍に当たる31人が返納申請した。

1998年制定された運転免許の自主返納制度は、加齢による身体機能や認知機能の衰えて運転に不安のある人などが自主的に免許を返す制度。2009年に82人だった自主返納者は18年に3463人と42倍に増えた。19年は3月までの返納者は854人（暫定値）で4月の事故を受け返納者はさらに増える見込みだ。

県警交通部は「運転に不安を感じている人は相談を寄せてほしい」と呼び掛けている。高齢ドライバーを巡っては年齢を理由に運転を危険視されることも多く、70歳以上に義務化された高齢者講習の予約が取りづらいなどの指摘もある。

全国で事故や逆走などの報道が相次ぎ自主返納制度の認知が高まる中、車社会の沖縄では家族や近親者のサポートがないと返納にはつながらないと県警はみている。公共交通の割引拡充など自主返納につながる環境づくりを検討している。



◆沖縄でも運転免許の自主返納が増加 高齢者の移動不便、負担も…公共交通環境など課題

「運転に自信はあるが何か起こってからでは遅い。万が一の事故を考えて決めた」と話す那覇市の渡嘉敷兼義さん（84）は15日、18歳で取得した運転免許を返納した。65年以上無事故だったというが、生活に欠かせなかった車も手放した。



窓口で運転免許の自主返納手続きをする男性＝15日、豊見城市の県運転免許センター

4月の東京・池袋の事故以降、豊見城市の県運転免許センターには自主返納者が連日訪れている。返納は専用窓口で免許証を持参し簡単な書類を記入する。身分証の代わりに必要な書類がなければ約15分で証明書が交付される。体が不自由な人や入院中の人でも委任状があれば代理で手続きできる。ただし、免許証が有効期限切れだと同証明書の申請はできない。

返納手続きを終え「思っていたよりあっという間だったよ」と話す渡嘉敷さん。約半年前に脳梗塞を患い、医師や家族の勧めで運転免許の自主返納をしたが、返納後の生活には不安を感じている。ちょっとした買い物にも「500円の品を買いに出てタクシーに乗ると往復で千円かかる」。返納は生活の変化を余儀なくされ、特に公共交通が整わない環境での移動や生活の支援を必要とする高齢者には大きな決断になる。

県警は免許返納者に公共交通や飲食店での割引など優遇措置を設けている。豊見城市の県運転免許センターは日曜も対応するなど、自主返納を受け付ける態勢の拡充に努めている。免許返納を考える人や高齢者のいる家族は、最寄りの警察署に相談を寄せてほしいとしている。（高辻浩之）

- ▶ 沖縄県のバス事業者への補助等の動向を見ながら実施へ向けて調整を進める。
- ▶ 浦添市においてもバス乗務員の確保へ向けた取り組みを行い課題解決に努める。
- ▶ デマンド交通等の新たな交通手段についても検討を進める。